

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 発行 2014年2月1日 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育 110番 077-523-3715
 e-mail shiga.minken@gmail.com
 HP : http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号 01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座 511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

出会いのこと

今冬、3つの研究会に参加

年末から年始にかけて、3つの研究会に参加した。1つは立命館大学内で行つた大東文化大学渡辺恵津子先生を迎えての勉強会&交流会、愛知県と京都府の若い二人の先生の話もふくめて「これから教師になる人」と題して行われた。参加者は60名。

そして12月26日から27日にかけては日本生活教育連盟石川サークルの第49回冬の集会 立命館大学からマイクロバスも使って30名を超える参加者、福島南相馬町の白木先生の話、そして愛媛の河野先生の教師の歩みを聞くだけでなく、各地から集まつた参加者のレポートを3つの分科会に分かれて討議した。

最後は正月4日から5日にかけて立命館大学BKCにある教職をめざす学生の自主ゼミの連合体(=ミセル)の第2回研究大会。卒業生と現役3・4回生の合同の研究会で、参加者は約30名。それほど大きな学びあいではないが、そこに参加した学生の顔が生き生きしていたのが印象的だ。「学生は今何を求めているのだろうか?」

「学ぶ意欲などないのではないか」などの話を聞くことがあるが、本当にそうか。私がこれらの研究会を通じて目にしたものは、そこに参加し、意欲的に学んでいる生き生きと参加している学生たちの姿だった。

様々な学びに出会わせることの重要性

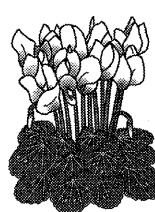
子どもたちの意欲をどう高めるのか、と問われたときに、その答の1つに、様々な学びに出会わせることの重要性を、最近特に思うようになった。今の学校体制の中で育ってきた学生の多くは、学びにつながる出会いを経験していることが少ない。「知らない」「出会いがない」という言葉が、や人の興味はわいてこない。バーチャルな世界の情報だけがあふれている場にいる彼らは、実物や実際に生きている人や場所に出会うことによって、今まで生まれてこなかつた関心に目覚めることが多い。

12月のはじめに取り組まれた社会科自主ゼミのフィールドワークでも、北近畿(舞鶴・丹後)を訪問し、はじめて「朝鮮人や中國人の強制連行」に触れ、目の前でリアリスト海岸や天橋立の地形に接し、その美し

浦島 清一



(浦島 清一 講師)
立命館大学BKC教職支援センター講師



さと同時に、その地形の生まれてきた経過に興味を持つようになつた。さらに、造り酒屋での杜氏の話に引き込まれながら、その世界の奥ゆかしさを感じることができた。こうしたリアルな幅広い出会いをどのように生み出していくのか、すぐにたどり着きたい地点には行かないかも知れないが、そこを豊かにすることが今重要なのだと教えてくれた。

《今月の紙面》

- ・出会いこと／浦島清一(立命館大学BKC教育支援センター講師).....1p
- ・今、学校はなぜ忙しいのか?どうすれば変えられるのか?／近藤恭司(桐原小学校).....2・3p
- ・道徳の「教科化」の意味するもの／本田清春(滋賀県民研事務局次長).....4・5p
- ・部会報告【第1部会】綴り方といじめと学級集団実践・ヴィゴツキー理論学習／倉本頼一(滋賀大学/立命館大学).....6p
- ・書評：春日井敏之・近江兄弟社高等学校単位制課程編『出会いなおしの教育ー不登校とともに生きる』ミネルヴァ書房／家長 隆(立命館大学講師).....7p
- ・滋賀の教育動向(11・12月).....8p